

令和8年8月27日（木） 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
感染症対策推進課	感染症対策係	宮川	内線 3352 直通 058-272-8453 FAX 058-278-3550
生活衛生課	動物愛護係	いさがわ 去來川	内線 3413 直通 058-272-1986 FAX 058-278-2627

マダニによる感染症が頻発しています ～畑仕事や草むらなどに入る際はマダニ対策の徹底を～

現在、県内において、マダニが媒介する感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）及び日本紅斑熱の患者が相次いで発生しています。

SFTS 及び日本紅斑熱は、主に病原体を保有するマダニに咬まれることにより感染します。春から秋にかけてはマダニの活動が活発となり、咬まれるリスクが高まるため、特に注意が必要です。

畑仕事や草むらなどに入る際は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなどして、マダニに咬まれないようにしましょう。また、SFTS は感染した動物との接触により人へ感染することがあるため、犬や猫などのペットを飼育している方は、ペットへのマダニ対策も実施しましょう。

1 マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

明るい色の服はマダニが確認しやすいです。

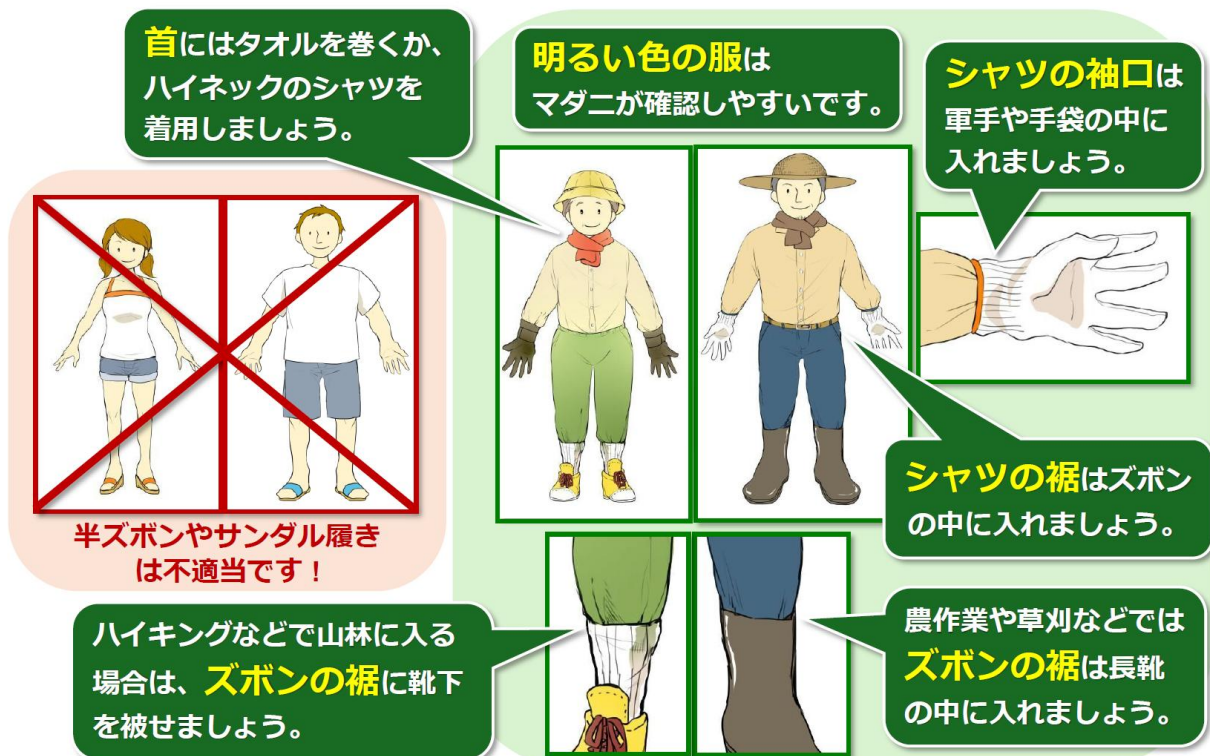
シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れましょう。

シャツの裾はズボンの中に入れましょう。

ハイキングなどで山林に入る場合は、**ズボンの裾**に靴下を被せましょう。

農作業や草刈などでは**ズボンの裾**は長靴の中に入れましょう。

半ズボンやサンダル履きは不適當です！



2 SFTS 及び日本紅斑熱を媒介するフタトゲチマダニの写真



(提供：岐阜県保健環境研究所)

3 令和 8 年の岐阜県内における SFTS 及び日本紅斑熱の発生状況

(1) SFTS

患者	届出月	年代	住所 (市町村名)	感染の可能性があった行動
A	4 月	9 0 歳代	土岐市	畑仕事、タケノコ掘り
B	7 月	8 0 歳代	恵那市	竹藪で草刈り
C	8 月	2 0 歳代	中津川市	不明（調査中）

※別途、令和 8 年 8 月、県内で初めて、愛玩動物（猫）から S F T S の症例が確認されました。

(2) 日本紅斑熱

患者	届出月	年代	住所 (市町村名)	感染の可能性があった行動
A	7 月	5 0 歳代	各務原市	山椒の収穫、自宅庭の草むしり
B	8 月	7 0 歳代	各務原市	畑仕事
C	8 月	5 0 歳代	大垣市	畑仕事
D	8 月	5 0 歳代	岐阜市	不明（調査中）
E	8 月	7 0 歳代	各務原市	自宅庭の草刈り

患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から特段の御配慮をお願いします。

4 過去 10 年の岐阜県及び全国の年別 SFTS 及び日本紅斑熱報告数

(1) SFTS

報告年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
岐阜県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
全国	90	77	101	78	110	118	134	122	191	126

※2025 年及び 2026 年は速報値

(2) 日本紅斑熱

報告年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
岐阜県	0	0	0	0	1	0	0	0	6	5
全国	337	305	318	422	490	457	500	523	674	285

※2025 年及び 2026 年は速報値

参考資料

1 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)及び日本紅斑熱について

	SFTS	日本紅斑熱
病原体	SFTS ウイルス	日本紅斑熱リケッチア(※)
感染経路	・ウイルスを保有するマダニの刺咬による感染が中心 ・SFTS ウイルスに感染したペット等の動物から人への感染も報告されている	・リケッチアを保有するマダニの刺咬による感染
症状	・発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血) ・ときに、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状等を伴う	・発熱、発しん、刺し口(ダニに咬まれた痕) ・治療が遅れると重症化する
致死率	10～30%	1～4%

※リケッチアとは、細菌の一種ですが、一般的な細菌と違い、自力では十分に増殖できず、人や動物の細胞内に侵入して増える「偏性細胞内寄生菌」です。

2 予防方法

(1) マダニに咬まれないために

- ・マダニは、主に森林や草地に生息していますが、郊外、市街地でも生息しています。草むらや藪などに入る場合は、肌の露出が少なくなるようにしましょう(帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等)。
- ・長袖、長ズボン、登山用スパッツ等を着用し、シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れてみましょう。
- ・サンダル等は避け、足を完全に覆う靴を履きましょう。
- ・マダニが目視で確認しやすいように、明るい色の服を着ましょう。
- ・肌の露出部分に有効成分が含まれた虫除け剤を使用しましょう(取扱説明書に沿って使用してください。)
- ・屋外活動後は、上着や作業着は家の中に持ち込まないようにし、すぐに入浴してマダニに咬まれているか確認しましょう。

(2) マダニに咬まれた場合

- ・マダニに咬まれているのを見つけたときは、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置をしてもらいましょう。
- ・マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。その際、マダニに咬まれたことを医師に説明してください。

(3) 動物からの SFTS 感染を防ぐために

- ・動物を飼育している場合、過剰なふれあい(口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝たりすることなど)は控えてください。
- ・動物に触ったら必ず手を洗いましょう。また、動物に付着したマダニは動物病院で適切に除去してもらいましょう。
- ・飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、マスク、手袋などを着用し、咬まれたり舐められたりしないように注意したうえで、動物病院で診てもらって下さい。ペットがマダニに刺されないようノミダニ予防薬も有効ですので獣医師に相談しましょう。
- ・野生動物は、どのような病原体を保有しているか分かりません。野生動物との接触は避けてください。

詳しくは、

●マダニ対策、今できること | 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>